

第73回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会

□大会第12日目 9月26日(土)

準決勝 楽天生命パーク宮城 1時間 57分

柴田	0	0	2	0	0	0	2
仙台育英	2	0	1	0	6	3x	12

打安点盗犠四三残失併

【柴】	24	6	2	1	0	1	6	5	0	0
【仙】	29	15	12	7	2	3	2	5	0	0

(球) 野田 学 (一) 菅原 幸 (二) 鴫田代志昭 (三) 大槻充夫 (6回コールド)

▽本塁打 秋山(育)

【柴】 谷木, 日下 一 舟山

▽三塁打 吉野(育)

【仙】 松田 一 木村

▽二塁打 横山, 菅野 (柴)
吉野, 渡邊 (仙)

▽暴投 日下1(柴) ▽捕逸 なし

【評】

今夏の再戦となった仙台育英と柴田の一戦。

先制したのは、仙台育英。1回裏1番浅野の左前安打、2番藤井のバント内野安打と二つの盗塁で好機をつくと3番秋山の内野ゴロと4番吉野の左越適時二塁打で2点を挙げた。

追いかける柴田は、3回表9番先発の谷木が中前安打で出塁すると、2番横山の右越二塁打、3番舟山の中前適時打、4番菅野の右横適時二塁打の3連打で2点を挙げ同点とした。

仙台育英は、同点で迎えた3回裏、2番藤井の中前安打と二つの盗塁で一死三塁をつくと4番吉野が左前適時打で逆転に成功した。続く、5回裏には、6本の長短打と野選を含めた攻撃で6点を挙げた。7回裏には、一死から3番秋山が柴田の2番手日下から、大会11号となる右越本塁打を放つと、二死二、三塁から代打出場の渡邊が中越適時二塁打で3点を挙げ試合を決めた。

柴田は、3回まで6安打と攻めていたが、4回以降無安打に抑えられて、悔しい敗戦となった。

準決勝 楽天生命パーク宮城 2時間 4分

古川学園	0	0	0	0	0	0	1	0	0
東北	0	0	0	0	0	0	1	0	1x

打安点盗犠四三残失併

【古】	26	4	0	0	2	4	3	4	0	0
【東】	26	4	2	0	3	6	2	7	0	2

(球) 佐藤 圭 (一) 沼辺力也 (二) 手塚仁基 (三) 武田 徹

▽本塁打 なし

【古】 三浦 一 小川

▽三塁打 なし

【東】 岩佐, 小倉 一 中道

▽二塁打 鈴木 (古)
なし (東)

▽暴投 なし ▽捕逸 なし

【評】

9年ぶりの決勝進出をかけた古川学園と5年ぶりの決勝進出をかけた東北高校の一戦。

古川学園の三浦投手、東北高校の岩佐投手・小倉投手の息詰まる投手戦となった。4回表、古川学園の4番鈴木のパitchャーライナーで、東北高校岩佐投手が負傷するも、変わった小倉投手も粘り強く投げて、両チームとも6回まではランナーを出すもあと一本が出ず、無得点におさえられた。

試合が動いたのは、7回。先攻古川学園の4番鈴木が左越二塁打を放ち、5番白鳥の犠打で1アウト3塁とし、6番小川の打席で東北高校小倉投手のボークで先制した。1点を追う東北は7回裏、6番高橋の中前安打、7番遠藤の犠打で2アウト2塁とする。8番中道の左前適時打ですぐに同点とした。

その後、古川学園の三浦投手、東北の小倉投手の力投で9回表まで無得点が続いた。同点で迎えた9回裏、先頭の4番伊藤が四球で出ると、5番竹中の犠打、6番高橋の申告敬遠で1アウト1・2塁となった。最後は8番中道が右前適時打を放ち、サヨナラ勝ちとなった。勝利につながる2打点をあげた東北高校中道の勝負強い打撃と、古川学園の三浦投手、東北の岩佐・小倉投手の粘り強い投球が光った熱戦であった